日本学術会議
臨床医学委員会　出生・発達分科会（第 25 期・第 1 回）
議事録

日時：令和 3 年 1 月 26 日(火)　15:00～16:00
場所：遠隔会議
出席者：水口、神尾、児玉、寺田、原、藤井、宮崎、船曳（敬称略）

議題
１．自己紹介
8 名全員参加であり、各メンバーから自己紹介を行った。
産婦人科医 3 名、小児科医 3 名、児童精神科医 2 名

2．24 期の報告（神尾委員より）
提言「発達障害への多領域・多職種連携による支援と成育医療の推進」を発信した。
成育基本法に合わせて作成した。虐待の見えないハイリスクである発達障害が取りこぼされないようにし、縦割りによるバリアを超え、多職種連携も重要視した。
提言をどう生かしていくかが重要で、学会等でも活動を検討する。

３．25 期の設置趣旨
母子保健の国民運動計画として、平成 13 から「健やか親子 21」において、第 2 期に「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」が基盤課題の一つとなった。
学童期・思春期から成人期にかけての身体的・精神的・社会的な健康に関する諸問題を議論
藤井委員：10 代の望まざる妊娠について、社会から排除される傾向にあるのでは。
宮崎委員：赤ちゃんポストは望まざる妊娠の方が来られやすい。ピルが避妊法として知られるが、それをもらいに行くことには抵抗がある。この抵抗を下げることが、その後の虐待、世代間伝達の悪循環を減らすことになるだろう。
神尾委員：望まざる妊娠の方は精神科への受診行動をとりにくいため、児童精神科には馴染みが深くないが、重要なテーマである。虐待には、望まない妊娠による群がある一方で、思い入れが強いことによる虐待もあり、後者の方が分野的には近い。

４．役員選出
以下の役員に対して、了承が得られた。
　委員長　水口
　副委員長　藤井
　幹事　船曳

５．特任連携会員

藤井先生からの以下の推薦があった。異論なく、次回から参加頂くことになった。

鮫島浩二先生：さめじまボンディングクリニック院長
望まざる妊娠に関する日本の第一人者

６．今期のテーマの方向性について

男子にも焦点を当てる必要があるのではないかという指摘があった。まずは女子に焦点をあてているが、男子の性行動に対する取り組み、産後うつにおける父親も重要な視点であり、今後、議論していくこととなった。

７．その他

望まざる妊娠を取り上げる際には教育面も必要だが、教育関係者がメンバーにいないという指摘があった。教育関係者の中でも、性教育や望まざる妊娠に長けた人である必要があり、現時点で候補がいないが、連携会員や、講演としての参加なども念頭に取り入れたい。

委員会の方式に関して、対面が困難な事情であるため、メール会議も追加することとなった。